

カルメル 靈性センターニュース



2024年7月 410号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	22
東京	23
名古屋	26
京都	27
通信深読お申込みのご案内	31
諸所の企画案内	32
靈性センターニュース郵送終了のお知らせ	36

心の泉



宇治カルメル会 黙想の家 聖堂

DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第四卷 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

**第一章 どれほどの尊敬をもって、
キリストを拝領しなければならないか**

9 知識を超える神秘

全宇宙の創造主よ、目に見えない神よ、私たちに対するみ業はなんと驚くべきことでしょう！秘跡においてご自身をお与えになる選ばれた者たちに対して、どれほどの優しさとあわれみとを、お示しになることでしょう！実にそれは、私たちの理解のおよばないところで、あなたを愛する者たちの心を引きつけ、その愛を燃え立たせます。生涯にわたって悔い改めに努める真の信者は、このもっとも聖なる秘跡から、信心の偉大な恵みと、徳への愛とをくみとるのです。

10 恵みの泉

おお、秘跡の感嘆すべきひそかな恵みよ！それはキリストの忠実な弟子のみが知ることであり、信仰のない者、罪の奴隸である者には経験できません。この秘跡によって恵みが与えられ、失われた徳と、罪によって汚された美とが靈魂に戻ります。その恵みは偉大なものですから、そこがれた敬虔が満ちあふれ、心だけではなく弱い体さえも力づけられるのを感じるほどです。

11 私たちの貧しい靈魂

しかし、私たちは自分の生ぬるさと怠慢とを、悲しみ嘆かなければなりません。私たちは、救われる人々の希望であり、功德であるキリストを拝領しようという熱望が欠けているのです。主はまことに、私たちの「成聖とあがない」（コリント1・30）であり、旅人である私たちのなぐさめであり、聖人たちの永遠の喜びです。天の喜びであり、世界に幸せをもたらす救いの神秘を、多くの人が無視するのはほんとうに悲しいことです。

この偉大な賜物を尊ばず、日々それを受けているがらほとんどそれに注意しないのは、人間の心の鈍さとかたくなさをあらわしています。

12 皆、私のところに来なさい！

この聖なる秘跡が、全世界でただ一カ所、ただ一人の司祭によって捧げられるなら、神の秘跡を見ようとして、人々はその神の司祭のもとに集まるでしょう。しかし今、多くの司祭がいて、多くのところでキリストが捧げられているのは、聖体が全世界で多く捧げられれば捧げられるほど、人間への神の愛と恵みとがあらわれるからです。

聖体とおん血をもって、貧しいさすらい人の私たちを養い、「労苦する者、重荷を負う者は皆、私のもとに来るがよい。私はあなたたちを休ませよう！」（マタイ11・28）とのみことばによって、この秘跡を受けなさいと招く、永遠の牧者イエスよ、あなたに感謝いたします。》

二〇二五年へ向けて

聖年・テレーズ列聖百周年

2024-7



主イエス・キリスト、

あなたは わたしたちが天のおん父のように

いつくしみ深い者となるよう教え、

あなたを見るものはおん父を見ると言わされました。

み顔を示してくだされば わたしたちは救われます。*

神のいつくしみへの

果てしない望みは わたしの宝です。

～リジーの聖テレーズ～



7月 16 日 カルメル山の聖母の祝日



マリアよ、

わたしはあなたを眺めます。

あなたの祈りは

わたしたちに祈りが 何であるか教えてくれます。

祈りとは自分のうちに 何も残しておくことなく、
全存在をもって 神へ向かう動きであることを。

*下左：7月 16 日

聖ベルナデッタへの最後のご出現は沈黙のマリア。

*下右：聖エリヤの祝日 7月 20 日

カルメルの彼方の海から
のぼりゆく 小さな雲
砂漠をうるおす
いのちの泉、マリア

伊従 信子（いより のぶこ）

ノートルダム・ド・ヴィ

*「いのりの道」幼きイエスのマリー・エウゼンヌ師とともに」 47 p : 聖母の騎士社、聖母文庫



フランシスコ教皇の言葉 ④

わたしたちは大地の塵。

しかし、神はその中に天国を注ぎ込みました。

わたしたちは、神の夢を吹き込まれた塵なのです。

「わたしたちは大地の塵」にすぎません。それが、人間の現実です。ある時、この世に誕生し、何年か生き、やがてこの世を去っていきます。「肉なる者は皆、草に等しい。永らえても、すべて野の花のようなもの」（イザ 40:6）。

人間はそのように造られています。「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」（創 2:7）。神はアダムにこう言われます。「お前は顔に汗を流してパンを得る。土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る」（同 2:19）。

しかし、教皇様が言われるように、「神はその中に天国を注ぎ込みました」。なぜなら人間は「神のかたどり」として、「神の似姿」となるように造られたからです（同 1:26-27）。単なる塵ではなく、「神の夢を吹き込まれた塵」なのです。単なる動物ではなく、「神の子」、まことの人間となるようにと神から願われているのです。(P. 九里)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（192）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

権威の行使において（6）

修道士たちが最初の食卓（訳注：ミサのことか）で彼の言葉を食べた後、くだんの聖なる神父は、静穏の時と呼んでいた時間、いつものように、修道士たちと一緒にいました。この証人と他の修道士たちは、その時間、第二の食卓から、くだんの聖なる神父からとても生き生きとしたメッセージを聞くために、断食してはいましたが、食べるのをやめました。彼の話に、みなはこのうえなく慰められ、私たちの主である神を愛そうとの大きな望みと熱で満たされ、またそれらの話から非常に崇高な思いを汲み取りました。

彼のそばで一緒に過ごした人々は、彼の話を聞くのに飽くことはありませんでした。彼を知らない人々は、なにがしかの尊敬の心をもって、何人かはなにがしかの恐れをもって、彼を眺めました。あらゆる疑いは、彼の話とともに消え失せました。その後では、至る所で彼に従おうとしました。彼と共にしばしば旅をした目下の者のひとりは、そのことを次のように説明しています。

「修道生活において完全であるという彼の名声によって、不完全な人々は、彼が長上であるところで一緒に生活することを恐れました。しかし、彼の聖なる説教や講話を享受すると、彼らの態度は変わり、それらを享受するために、また利用するために、彼が出かけるところなら、モロ人のところであろうと、どこにでも喜んでついて行きたいと言いました。また彼らが彼に対していた恐れは、彼を知らないでいるということでした。なぜなら、彼は靈魂を神へとやさしく引きつける賜物を持っていましたからです」。

(P.九里訳)

年間 第14主日（B）

(マルコ6：1-6)

福音書の一節に、イエス様がご自分の故郷にお戻りになり安息日に会堂で教えられたとあります。そこで話を聞いた人たちは驚きました。この人たちは、イエスが賢いことを認めていましたし、イエスの行いが不思議であると納得していました、またイエスの驚くべき奇跡や働きのことを聞いていたに違いありませんでしたが、彼らはイエスを拒んでいました。イエスは、親せきや友人たちには尊敬されていませんでした。イエス様を個人的に知っていたので拒んだのです。彼らにとってイエスは貧しい家族出身の大工の息子にすぎなかったのです。「一緒に育ったこの人の知恵や力はどこから得たのだろう」。彼らはイエスを受け入れることができませんでした。

あらゆる拒絶に対してイエス様は、「預言者が敬われるのは、自分の故郷、親戚や、家族の間だけである」とお答えになりました。”Familiarity breeds contempt”（「親しさも度を過ぎると侮りを生む」）。（「親しさも度を過ぎると侮りを生む」）。という英語の諺があります。確かにその通りです。自分自身の家族や仲間たちに拒絶されるほど傷つくことはありません。預言者としてのイエスや、他の多くの預言者たち、そして神からの使者たちがどれほど拒絶、侮辱、批判を受けたか聖書から知っています。今日の福音は、私たちが拒絶や批判に預言者的勇気をもって立ち向かうように促しています。

私たちは皆、福音書のメッセージに共感することができます。裏切りや、無視、不信、離婚、トラウマ、家庭内暴力、その他様々な言葉や行為の乱用による拒絶の痛みを体験しているかもしれません。私たち自身の家族や、友人たち、親しい人たちに拒絶されるとき非常に悲しく、ショックです。多くの場合、その人たちと親しく、家庭的に対応することによるのかもしれません。私たちも自分自身を調べてみましょう。偏見によって神の使者をどれほど無視しているでしょうか？高慢や頑な心によってどれほどこの人たちの中に神のイメージを見損なっていることでしょうか？万能の力強い神の祝福と恵みは、常に私たちと共にあり、最も弱く、最も望まれない人さえ神の素晴らしい道具に変えてくださいます。拒絶にどのように応えますか？イエスの名前を呼び求めましょう。イエスはだれに対しても拒絶したり、区別したりされません。神は、いつでも、どのような情況にあっても、私たちを愛してくださいます。私たちの主である神に祝福がありますように！アーメン！

(Sr. Paulina)

年間 第15主日

(マルコ6:7-13)

今日のみことばは、イエスが故郷のナザレにお帰りになって人々の不信仰により何も奇跡を行うことが出来にならず、付近の村を巡り歩いて教えられた際の出来事です。イエスは十二人の弟子たちを呼び寄せて、2人づつ組にして宣教に遣わすことにされ、弟子たちに具体的な細かな指示をお与えになりました。

神の国が近づき神の支配が始まっているのを証しするため、弟子たちを遣わされます。汚れた靈に対する権能を授け、旅には外敵から身を守る杖1本のほか何も持たない様に、そしてパンも袋も持たず、帯の中には金も持たない様にと。それは全てを神に信頼して、神の計らいに身を委ねながら歩む様にされたのですね。私たちも全てを神に信頼して、神の計らいに身を委ねて歩むことができたら、どんなに良いことでしょうか。

イエスはさらに、そしてどこでもある家に入ったら、すなわちどこかの町や村の中である家に入ったら、その土地から旅立つ時まで、その家に留まりなさいと言われました。それはあちこちの家や人、もてなしの仕方に目や気や心を奪われてしまうのではなく、ひと所で腰を落ち着け、心を落ち着け、宣教を行う様にするための配慮なのでしょう。

そもそもも迎え入れられず、耳を傾けようともしない所があったら、足の裏の埃を払い落としなさいと言われました。それは、あなたがたは私たちとは何の関わりもない、私たちはあなたがたを異邦人と同じ様に見做す…という厳しいメッセージでした。

私たちは、様々なことを通して語られる、神の語りかけに耳を傾けているでしょうか、心を開いているでしょうか。そのことを心に留めて、日々歩んでゆきたいと思います。

イエスの指示を受けた十二人は出かけて行き、人々を悔い改めさせるため宣教したと記されています。具体的な事柄は書かれていませんが、多くの悪靈を追い出して、油を塗って多くの病人をいやしたとありますので、十二人を通して神の力が働いている、神の支配、神の国が始まっていることを、彼らが訪れた町や村の人々は目の当たりにし、悔い改めた人も多かったのではないでしょうか。

神の子とされた私たちが神への信頼のうちに、神とともに歩むことができます様に。私たちの日々の歩みが、良い宣教の歩みとなります様に。

(Fr. 古川利雅)

年間 第16主日 (B)

(マルコ6：30－34)

イエスの弟子たちは、神のことばを告げ知らせ、赦されるべく自分の罪への痛悔を説き、病人を癒し、悪霊を追い払い、人々を開放した自分たちの宣教活動をイエスに包み隠さず報告しました。するとイエスは、人里離れた所で休息するようにと弟子たちを促します。弟子たちが忙しさのあまり特に食事や休息を十分に取れていなことを重々承知だったからです。ただ群衆は彼らについてきました。イエスと弟子たちが舟で人里離れた場所に行こうとしたのに群衆が先回りしたのはとても面白い場面です。イエスは舟から上がると、飼い主のいない羊のような大勢の群衆を見て深く憐れんで教え始められました。

イエスは、あわれみ深い愛ゆえに、羊と一緒にいるために自分の休息を断念しました。福音では、イエスのこの勇ましい愛の2つの面が描かれています。まずは疲労困ぱいの弟子たちをいたわり、彼らに休ませてリフレッシュさせようとするイエスの深い愛があります。他方、しつこく追ってくる群衆に対するイエスの温かい愛もあります。牧者のいない羊のように疲れ果てた有様を見たイエスは、群衆のニーズに応えるために休息の予定を中止しました。

今日の福音は、私たちに問いかけます。同じような状況では、私たちはどう対応するでしょう？イエスのように反応するか、それとも自己中心的な反応をするでしょうか？既に決まっている予定や休みを邪魔されたとき、あなたはどんなリアクションを取りますか？怒りか、それともあわれみか？思いやりに満ちた態度かそれとも批判的な態度か？自分中心かそれともイエス中心か？愛あふれる主に対し、私たちが人々のニーズに敏感である愛の靈を与えてくださるよう謙虚に願いましょう。そして自分たちの人生の予定を必要に応じて変えていく大らかさも祈り求めたいと思います。

(Sr.Paulina)

年間 第17主日（B年）

(列下4:42-44、ヨハネ6:1-15)

列王記下4章から7章には預言者エリシャの奇跡物語がいくつかあります。イエスの奇跡物語がエリシャの奇跡物語を踏襲していることが窺えます。今日の5000人の男たちへの供食物語もエリシャ伝承と重なっています。後のアモスから始まるとされる記述預言者は、いわゆる言葉を中心とした預言者ですが、エリヤやエリシャは行動の預言者と呼ばれます。新約において福音記者達は、神の言葉を預かり語る記述預言者たちと、行動の預言者達の完成をイエスのうちに見ていたのでしょうか。

ヨハネ福音書では、エリシャの供食物語の奇跡がさらに先鋭化しています。エリシャ伝承では一人の男が持つて来た初物のパンと大麦パン20個と袋に入れられた新しい穀物を100人の人々に分け与えるというものでした。エリシャの召使は、それだけではとても足りないと主人に訴えましたが、エリシャは、人々に与えて食べさせなさい、彼らは食べきれずに残すと答え、召使が配ったところその通りになったというものでしたが、ヨハネ福音では、一人の少年が持つていた大麦パン5つと魚2匹のみで5000人の男たちが食べて満腹し、残ったパン屑で12の籠一杯になったとされています。

ヨハネ福音のメッセージで大切なポイントは、5000人の大人の男たちが満腹した原因が、数にも入れられない少年のわずかなものによったということでしょう。私たちが満たされる、満腹する、喜びや幸福が溢れる程にもたらされる原因についての示唆を与えてくれているでしょう。私たちには日常の中で目にとまらないもの、特に気にしていない存在、そのような存在が、実は私たちを満たし、幸福にしている源なのだということでしょう。私たちの目には見えなくても、神のひとり子イエス・キリストの目には、その存在がハッキリと見えています。小さな生命、善意が、多くの人々の溢れる喜びへと結実していくのです。

(P.志村)

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2024年6月2日

スペイン発:イエスの聖テレサの墓の調査開始



アルバ・デ・トルメスの跣足カルメル修道会女子修道院

2022年8月以降、跣足カルメル修道会は、スペインのアルバ・デ・トルメスにあるイエスの聖テレサの墓の再開に関するプロジェクトを調査し、準備を進めてきました。聖女の墓は1914年以来開かれておらず、今年聖女の遺体といくつかの主要な聖遺物に関する本格的な研究が、具現化されることが期待されています。

跣足カルメル修道会のローマ総本部はこの提案された計画を承認し、このプロジェクトを実施する重要性と必要性を評価しました。この事業に責任を

もって携わる人たちは、バチカンの列聖省と共同で働く医師と科学者のチームです。

跣足カルメル修道会は、自分たちのアーカイブや、特にアルバ・デ・トルメスの女子修道院に現存する、母なるイエスの聖テレサの墓や遺物、文書や遺物を調査しています。

この事業が必要とする日程枠は、主導する科学チームやその他の関係者の作業状況に応じて、2024年夏以降に確定されます。

期待されるこの一連のプロジェクトは、いくつかの教会法上とるべき段階を経て、2025年にはイエスの聖テレサの墓での崇敬が可能になるとみられています。

(訳・注:小宮山延子)



アルバ・デ・トルメスの跣足カルメル修道会
女子修道院敷地内にあるイエスの聖テレサの墓

いのちの言葉 7月

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。1

(詩編 23・1)

詩編 23 編はもっともよく知られ、もっとも愛されている詩編のひとつです。神への信頼の賛歌と共に、喜びの信仰告白という特徴も兼ねそなえています。主は、祈る人をイスラエルの民に属する者とされ、預言者を通して、主ご自身が彼らの「羊飼い」となることを約束されました。詩編の作者は、身を寄せる「のがれ場」であり「恵みの場」である神殿 2 の中で、自分がしっかり護られていることの幸せを深く感じています。しかし彼は自分の経験から、同胞たちにも主に信頼をおくよう彼らを励まし力づけたいと願うのです。

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

ところで、羊飼いとその群れのイメージは、すべての聖書文学において非常に大切な意味をもっています。それをよく理解するには、中東の乾燥した岩だらけの砂漠を思い浮かべる必要があるでしょう。羊飼いは羊の群れを導き、群れは羊飼いに従順に導かれていきます。羊飼いがいなければ羊は道に迷って死んでしまいます。羊は羊飼いの声に従い、羊飼いを頼りすることを学ばなければなりません。すべてにおいて羊飼いは、羊にとって常に欠かすことのできない旅の同伴者なのです。

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

この詩編は、神の愛を体験することで、私たちも神との絆をいっそう強めるようにと招いてくれます。ところで、なぜ詩編の作者は「わたしには何も欠けることがない」とまで言えるのか、疑問に思う人もいるでしょう。私たちの日々の生活を見るなら、さまざまな状況のなかで、健康のこと、家族や仕事のことなど、問題が常につきものです。そればかりか今日の世界では、戦争や気候変動、移民問題、暴力行為などに脅かされながら、私たちの兄弟姉妹の多くが計り知れない苦しみを味わっています。

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

この詩編を理解するための鍵は「あなたが私と共にいてくださる」(詩編 23・4) という一節にあると思います。常に寄り添い、以前とは異なる人生を私たちに歩ませてくださる愛なる神の確固とした存在です。キアラ・

ルーピックはこう記しています。「私たちを憐れみ、私たちの罪の代価を支払ってくださった偉大な存在であるお方に助けを求めることができると知っていることと、神からこよなく愛され、神からもっとも大切な存在としてその愛の内に生かされていると感じるのとは、全く別のことです。その結果、恐れや不安、孤独、孤児のように感じることもすべて消え去っていくでしょう。… 人は自分が愛されていることを知り、自分の全存在でこの愛を感じる時、この愛を信じ、この愛に従って生きたいと望むようになります。そして人生の中で出会う喜びや悲しみ、それらはすべて愛ゆえに、神がお望みになり、神がお許しになって起こることだと分かるのです。」³

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

この詩編はヨハネの福音書で、何の躊躇もなく「わたしは良い羊飼いである」と、おっしゃるイエスによって成就されました。「わたしは良い羊飼いである、わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている」(ヨハネ 10・14-15) とあるように、この羊飼いと羊の関係は、ひじょうに個人的でその親密さによって特徴付けられます。イエスは羊たちを、「いのち」であるみ言葉の牧草地へと伴われ、とりわけ、相互愛という「新しい掟」の牧草地へと導いてくださいます。イエスのみ名とその愛のうちに一つになった共同体の中でこの「新しい掟」が実践されるとき、そこには「ご復活のイエス」が、まるで「目に見える」かのように生き生きとした存在として感じられます。⁴

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

アウグスト・パロディ・レイエスと「いのちの言葉」編纂チーム

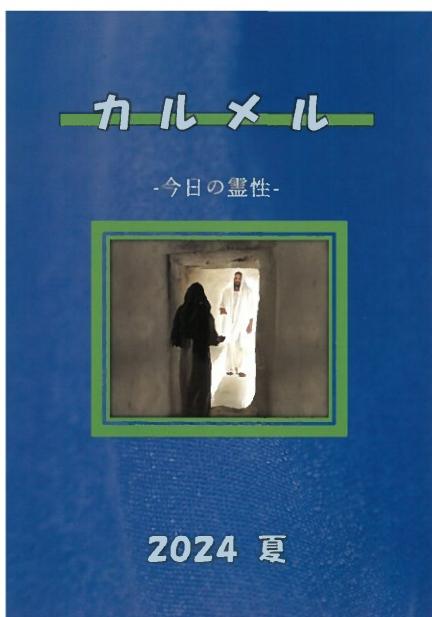
*いのちの言葉は聖書の言葉を默想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. 詩編 23・6 参照
3. キアラ・ルーピック著 *L'essenziale di oggi*, チッタノーバ社、ローマ 1997, p.148
4. マタイ福音書 18・20 参照

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ：<https://www.focolare.org/japan/>

カルメル誌 新刊案内



2024年 夏号 No.393

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(6) 鶴岡賀雄

テレーズ列聖百周年に向けて

—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(2)
伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から

ラウダート・シ=神のいのちへの道(2) 椿 権三

風に吹かれて再び(8)—無常の果てに 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(10) 九里 彰

靈的研究会講義録(24)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

若者の声

Y I



2024年 四旬節特別号

「わたしを愛に導くのは信頼、ただ信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)
聖テレーズ生誕150周年記念 教皇フランシスコ使徒的勧告「信頼」に導かれて

わたしは愛になりましょう

—愛の道を飛んでいくために 今泉 健

詩「むしられたバラ」より

—テレジアの愛の道 九里 彰

テレーズの信頼の道・小さい道と

ヤコブ・イスラエルにおける小さい道 志村 武

現代の闇を照らす灯火

—テレーズの進行の試練 片山 はるひ

小さな 偉大さ

伊従 信子

ご案内

1冊 580 円 A5 サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580 円 (+送料 140 円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特別号 計 3,600 円）を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跡足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシェル神父の講話Ⅱ



Onoaki Katsue 著

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社◎ 定価：1,650円(税込)

聖母マリアは、“イエスを愛し信じて生きるキリスト者の典型・模範”です（教会憲章53番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシェル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022年3月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薰陶を受けた信徒たちによって記録された講話が1冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学4年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハープに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて2年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハープによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシェル神父

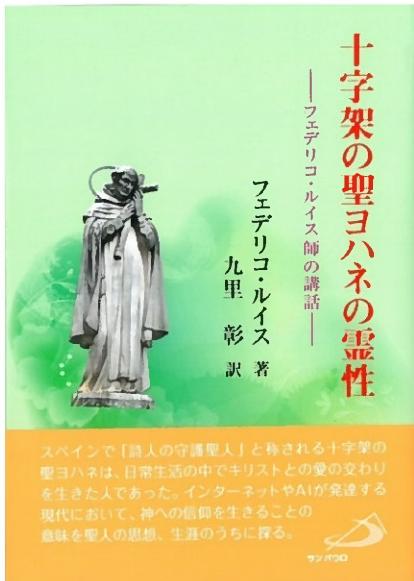
1921年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952年、司祭に叙階される。

1953年、来日。1956年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007年1月6日、月形町藤の園にて帰天(85歳)。



『十字架の聖ヨハネの靈性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・靈性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN : 978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「靈性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、靈性を正しく理解することの基礎となっていました。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



愛と英知の道

—すべてのための靈性神学—
タカラ・サンジョントン著



九里 彰
岡島 禮子
三好 洋子
渡辺 愛子
共訳



愛と英知の道

—すべてのための靈性神学—
タカラ・サンジョントン著

岡島 禮子
九里 彰
監訳
三好 洋子
渡辺 愛子
共訳

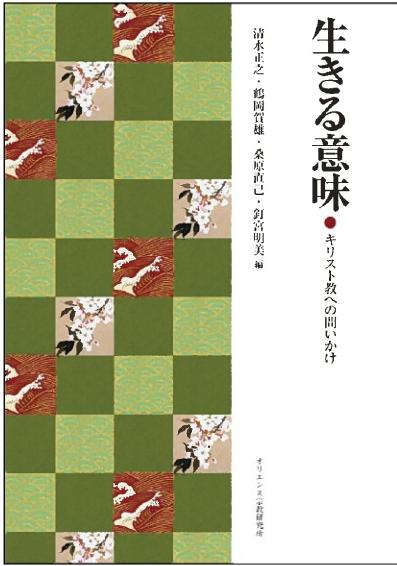
西洋と東洋の神秘主義の伝統に辿り着いた著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した靈的生き道の道しるべ。「すべての人は、聖職階級に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（「教会憲章」39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたこと、「21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いいかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探求において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部 キリスト教の伝統	第1章 背景(1)
第二部 対話	第2章 背景(2)
第三部 現代の神秘的な旅	第3章 理性対神秘主義
	第4章 神秘主義と愛
	第5章 東方のキリスト教
	第6章 愛を通して生まれる英知
	第7章 科学と神秘科学
	第8章 修徳主義とアジア
	第9章 恨根的なエネギー
	第10章 英知と宇宙
	第11章 信仰の旅
	第12章 暗夜浄化の道
	第13章 愛のうちにある花嫁と花婿
	第14章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第15章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第16章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第17章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第18章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第19章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	社会活動の神秘主義

ウイリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエス会に入会し、26歳で米日。
32歳で司祭に叙階され、以後英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベートマース・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した靈性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で歸天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——目次——

- 序 「生きる意味への問い合わせ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稻場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの靈性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による靈性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその靈性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



第2版
好評発売中！

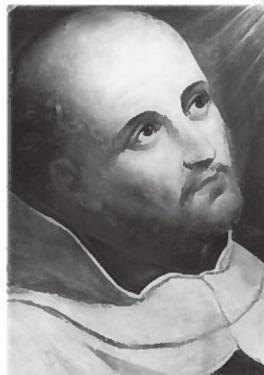
マリー=ユジエーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287



神と親しく生きる いのりの道

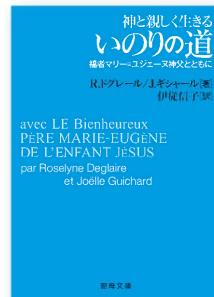
福者マリー=ユジエーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 [聖母文庫] 246

定価540円(税込) 209頁



わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジエーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

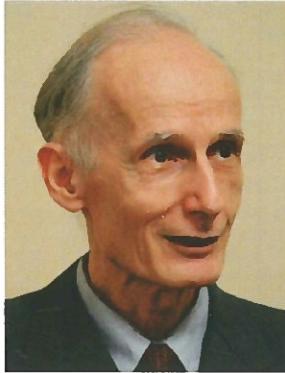
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 [聖母文庫] 268

定価648円(税込) 281頁



— ご注文・お問い合わせ先 —

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN

定価(本体+税)

第 1 巻	I 超越体験 一宗教論	9784862852151	3,800 円+税
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い合わせ」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理義と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p		
第 2 巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	978-4862852175	4,600 円+税
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p		
第 3 巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	9784862852205	5,000 円+税
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p		
第 4 巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	9784862852212	4,000 円+税
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問い合わせを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p		
第 5 巻	V 自己の解明 一根源への問い合わせと坐禅による実践	9784862852229	4,200 円+税
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問い合わせから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全35作、470p		

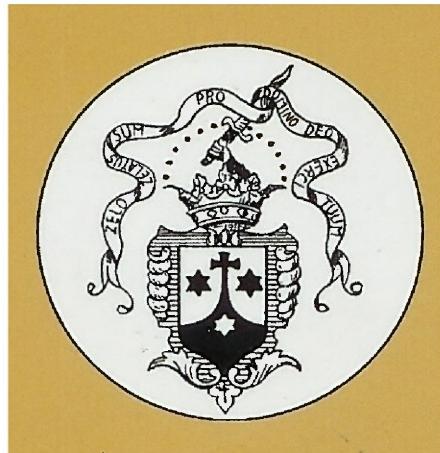
●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）



東京 上野毛 灵性センター

默想企画 * * 上野毛 聖テレジア修道院（默想）* *
(2024年4月～)

- ・聖書深読默想会(土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

2024年

4月 20日～21日 11月 9日～10日

5月 25日～26日 2025年

7月 27日～28日 1月 11日～12日

9月 28日～29日 3月 15日～16日

- ・奉獻生活者のための默想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2024年8月16日（金）～25日（日）

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 默想の場を提供いたします。

12月 27日（金）～1月 5日（日）

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(默想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

E メール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

2024年 カルメル会四旬節講話シリーズ

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)
聖テレーズ生誕150周年記念 教皇フランシスコ使徒的勧告『信頼』に導かれて…

第1回 2月18日（四旬節第1主日）

「私は愛になりましょう」—愛の道を飛んでいくために—

今泉健神父

第2回 2月25日（四旬節第2主日）

詩『むしられたバラ』より —テレーズの愛の道—

九里彰神父

第3回 3月3日（四旬節第3主日）

「テレーズの信頼の道・小さい道とヤコブ・イスラエルにおける小さい道」

志村武神父

第4回 3月10日（四旬節第4主日）

「現代の闇を照らす灯火—テレーズの信仰の試練」

片山はるひ（上智大学教授：ノートルダム・ド・ヴィ会員）

第5回 3月17日（四旬節第5主日）

「小さな偉大さ」

伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

・講話を YouTube で動画配信しています。(1時間～1時間40分程)

アクセスコード URL :

<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

2024年度の四旬節講話 YouTube 配信は7月16日までになります。

カルメル会四旬節講話は『カルメル誌特別号』に掲載されています。

『カルメル誌』購読のご案内は『カルメル誌 新刊案内』

または下記URLをご参照ください。

<http://carmel-monastery.jp/710magaz.html>

主催：カルメル修道会
お問い合わせ：「四旬節講話係」
reisei@carmel-monastery.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教靈性 —キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年7月20日（14：30～16：30）

レビ記の全体構造とメッセージ
—シャロームの実現のために、神の創造のわざを引き継ぐ—

2024年9月21日（14：30～16：30）

サムエル記の全体構造とメッセージ①

その後の日程：10月19日、11月16日

その後のテーマ：列王記の全体構造とメッセージ、
エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約+新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年10月26日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：九里彰神父

【スケジュール】

- 10：00～10：20 はじめの祈り
- 10：30～11：30 講話①
- 11：30～12：00 ご聖体顯示、念祷
- 12：00～13：00 昼食（各自持参）
- 13：00～14：00 講話②、
- 14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：12月14日（志村武神父）



宇治カルメル会 黙想会案内 (2024年7月～2025年3月)

【一般のための黙想】 1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時） 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

2024年

7月20日～21日 9月14日～15日 11月16日～17日

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時） 中川博道神父

2024年

9月28日 11月30日

2025年

1月11日 3月15日

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時） 中川博道神父

2024年

7月17日 9月18日 10月16日 11月20日

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

【カルメルの靈性】（午後5時～午後4時）

カルメル山の聖母 7月14日(日)～15日(月) 中川博道神父

幼き聖テレジア 9月28日(土)～29日(日) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12月21日(土)～22日(日) 中川博道神父

【祈りの学校 入門編】（火曜 午前10時～午後4時） 松田浩一神父

2024年

7月2日 9月17日 11月12日 12月3日

【祈りの学校 教会の祈り】（木曜 午前10時～午後4時） 松田浩一神父

2024年

7月11日 9月26日 10月17日 11月14日 12月19日

【奉獻生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

2024年

8月9日(金)～18日(日) 松田浩一神父(奉獻者のみ)

10月7日(月)～16日(水) 中川博道神父(一般可)

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父(一般可)

2025年
3月4日(火)～13日(木)中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

1泊2日(土曜午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)

2024年

10月19日～20日

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備しておりますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluchi.sakura.ne.jp/>

「祈りの学校」(2024年度)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(入門編) : 1月 30日 (火) 2月 20日 (火)、3月 19日 (火)、4月 9日 (火)、5月 7日 (火)、6月 4日 (火)、7月 2日 (火)、9月 17日 (火)、11月 12日 (火)、12月 3日 (火)

***日時(教会の祈り) :** 1月 11日 (木)、2月 13日 (火)、3月 21日 (木)、4月 18日 (木)、5月 23日 (木)、6月 20日 (木)、7月 11日 (木)、9月 26日 (木)、10月 17日 (木)、11月 14日 (木)、12月 19日 (木)

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ（*『教会の祈り』）

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒158-0093 京都府宇治市木幡御藏山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-32-7456

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カトリック教会 カルメル 青年たちの学び

教皇フランシスコの著作を学びましょう

- 日 時 : ① 2024 年 2 月 10 日 (土) PM5 時～2 月 11 日 (日) PM5 時
② 2024 年 4 月 20 日 (土) PM5 時～4 月 21 日 (日) PM5 時
③ 2024 年 6 月 15 日 (土) PM5 時～6 月 16 日 (日) PM5 時
④ 2024 年 10 月 19 日 (土) PM5 時～10 月 20 日 (日) PM5 時



(尚、日曜日 PM4 時から京都女子カルメル修道院でミサの予定)

- ① 教皇来日講話集 :『すべてのいのちを守るため』
- ② 使徒的勧告 『喜びに喜べ』
- ③ 使徒的勧告 『愛のよろこび』
- ④ 回勅 『ラウダート・シー』と使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所 : 宇治聖テレジア修道院 (黙想)

対 象 : 35 歳までの青年男女

参加費用 : 下記の E-メールか、FAX でご確認ください。

講話と同伴 : 松田浩一神父

申込み : 〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12

カルメル会聖テレジア修道院 (黙想)

FAX : 0774-32-7457

Email : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp





朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考え方や質問等を記入します。

サード・ステップ

(参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。)
講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなものもあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

*問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 靈性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2024年－祈りの集いのご案内

テーマ 真の幸せへの道

「…あなたがたは喜びで満たされる」
(ヨハネ16. 24)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)
予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」 (ソットコルノラ・フランコ神父)
2月 8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」 (ソットコルノラ・フランコ神父)
3月14日 心の貧しい人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
4月11日 悲しむ人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
5月 9日 柔和な人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)
6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
7月11日 懐れみ深い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
8月 休み
9月12日 心の清い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
10月10日 平和を実現する人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)
11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである
(コデノッティ・クラウディオ神父)
12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。 (コデノッティ・クラウディオ神父)

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）



申込先
真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
Tel:0968-85-3100
Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想 ~東洋の瞑想とキリスト者の祈り~

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
札幌 フォローアップ	8/22(木)9:30- 23(金)18:00	Fr. 植栗	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間撮子 TEL080-3260-1864
札幌 I & アドバンス	8/24(土)9:30- 25(日)18:00			本間不在時 山崎有紀 TEL090-4720-2157
萩 アドバンス	8/29(木)10:00- 30(金)16:30	同上	萩地域施設 (受付にお問合せください)	FR.アレックス TEL090-8240-7347
萩 入門	8/31(土)10:00- 9/1(日)16:30			valex@gmail.com
信越 I & アドバンス	9/6(金)9:00- 8(日)15:00 (前泊可)	同上	御聖体の宣教クララ 修道会軽井沢修道 院 (北佐久郡軽井沢町)	久喜ますみ Tel:090-7842-9404 masumi.kyuki @gmail.com
広島 フォローアップ	9/13(金)9:00- 14(土)16:00	同上	西日本靈性センター (広島市安佐南区)	西日本靈性センター 受付デスク TEL082-239-0034
広島 サダナ I	9/15(日)9:00- 16(月・祝)16:00			
仙台・福島 フォローアップ	9/20(金)9:00- 21(土)18:00 (前泊・継続宿泊・通い も可)	同上	仙台教区 宣教センター (仙台市宮城野区)	長尾雅子 TEL090-3467-4135 0az2.540787230@ ezweb.ne.jp
仙台・福島 I & アドバンス	9/22(日)9:00- 23(月・祝)18:00			

- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えて
いること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。今まで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウイリアム・ジョン斯顿神父の著作『愛と英知の道——すべての人のための靈性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所:イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間:以下の木曜日、13:30~15:30

7月11日 9月12日 11月14日

主催:慈しみ深き会

指導:九里 彰くのり神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

*問い合わせ先:042-473-6287 篠原(11:00~20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さい様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

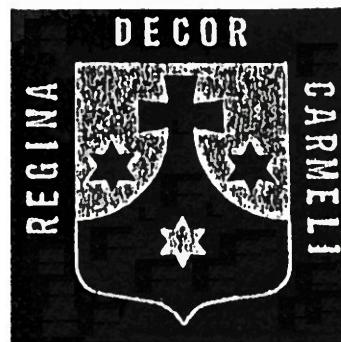
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



* * * * * 8月休刊のお知らせ * * * * *

「靈性センターニュース」は、8月（号）休刊となります。

9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。